

ユ スフ エステス 元キリスト教牧 (3/5)

:

明:

活 的なイスラ ム宣教 であるユ スフ エステスが面白おかしく る、自身の改宗 。第3部: 牧 へのキリ
ト教についての 教。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 男性](#)

より: ユ スフ エステス

日 6 Sep 2013

集日 23 Sep 2013

的な知 ムスリムはバイブルを信じるのか

1991年春のある日、私はムスリムがバイブルを信じていることを知りました。そのこ
とは 的でした。どうしてそんなことがあり得るのか?

それだけでなく、彼らはイエスについても次のようなことを信じていたのです。

- ・真の神の使徒であること
- ・神の 言者であること
- ・人的介入のない奇 を起こしたこと
- ・彼がバイブルで予言された「キリスト」つまりメシアであること
- ・彼が 在、神と共にあること
- ・彼が 末の日に り、信仰者を率いて「キリスト」と うこと

日「イエスのために神へと魂を ち取った」あと、「モズレム」をキリスト教へと「改宗」させることが私にとっての大きな目 となりました。

一杯の 茶 信条の

彼に 茶は好きかと ねると、好きだと答えました。なので私たちはモ ルの一角にある小さな店に入り、私の得意分野である信条について ることにしました。小さなコ ヒ 店に何 も座って していると（大部分は私が していました）、私は彼が非常に好感の持てる、静かで、には ずかしがり屋の 相も せる男性であることに 付きました。彼は私の に非常に注意深く耳を け、一度として を遮ったりはしませんでした。私は彼の性格を に入り、良いキリスト教徒になる可能性をひしひしと感じました。その は、やがて私の目の前で起きることには到底思いもよりませんでした。

共同事 の合意

まず、私は彼と事 を行うことを父と合意しただけでなく、彼が私と一 にテキサス州北部の出 の共をすること めました。私たちは 日、 の中で人々の持つ なる信条についての 々な 点を しました。道中ではもちろん、私の好きなラジオ局の宗教プログラムを、この可哀想な男のために流したりもしました。私たちは神の概念についても りました。また人生の意味、 造の目的、 使徒と彼らの使命、そしていかに神がその御意を人々に えるかについてもです。私たちはまた、多くの 人的な体 やアイデアについても共有しました。

我が家への引越し

ある日、私はムハンマドが家を引越して、彼の友人の元に世 になっており、モスクに一 的に滞在することになることを知りました。私は父のもとへ行き、ムハンマドが郊外にある私たちの大きな家の一 に住むことが出来ないかどうか ねました。そうすれば私たちは一 に仕事ができるし、出 も い合えるだけでなく、出 のときもすぐそこに居る

からです。父は合意し、ムハンマドが越してきました。

牧 と宣教の

もちろん、私はテキサス州の宣教 や福音 道者仲 と一 に ごす も作りました。彼らの内の一人は、テキサスとメキシコの国境付近に住んでおり、もう一人はオクラホマ州との州境付近に住んでいました。宣教 の中には、 よりも大きい、木 の巨大な十字架を担ぐことが趣味の者もいました。彼はその十字架の形をした二本の梁を肩に担ぎ、公道や高速道路でそれを引きずって きました。人々は を止め、一体何事なのかと ねてきますが、その 会に彼はキリスト教に するパンフレットや小 子を彼らに渡すのです。

宣教 の心 作

ある日、その十字架好きの友人が心 作を起こし、退役 人病院に 期入院しなければなりませんでした。私は に数回彼を 舞いましたが、教 や宗教について分かち合うことを期待してムハンマドも同伴させました。友人はそのことに全く理解を示さず、彼がイスラムに して心を ざしていることは明白でした。そしてある日、私たちが病室にいるとき、友人と同室の男性が 椅子で入室しました。私は彼に挨拶し、名前を ねましたが、彼の答えは「それは重要なことではない」で、どこの出身かを ねると「木星だ」と答えました。彼は何かの手 いで精神病 から心 病 に れ んでいたのではないかと思った程です。

主を求めていた 椅子の男

私は彼が本当は孤独で なのだと悟りました。そのため、私は彼のために主についての「人」となることにしました。私は彼に旧 のヨナ を み、人々を正道に くため、主によって遣わされた 言者ヨナの逸 を かせました。ヨナは人々から立ち去り、街から船で海へと逃げました。暴 が い、船が 覆しそうになると、 船していた人々はヨナを放り出しました。そのときクジラが海面に浮かび上がり、ヨナを み むと再び海底に沈み、ヨナ

はそこで3日3 日ごします。しかし神のご慈悲により、クジラは海面に再び上がり、ヨナを吐き出し、彼はニネベの街に 事 するのです。ここでの教 義は、私たちは自分たちの行いを知ることによって、直面する からは逃げ出すことは出来ないということです。神も私たちの行いをすべてご存知なのです。

カトリックの牧

椅子の男性にこの逸 話を 介したとき、彼は私を 上げ、 罪しました。彼は自分の 礼な 度に 申し なく感じ、深刻な ことに直面していたことを私に告げました。それから彼は、ある事 を告白したいと告げてきました。私はカトリックの牧 ではないので 悔は受け付け ないと言いました。彼はそのことを知っていると言いました。事 、彼はこう言ったのです。「私はカトリックの牧 なのです。」

私は愕然としました。私は牧 義にキリスト教を いていたのです。一体ここで何が起きているのか？

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/99>

著作 2006-2015 断 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 断 を禁じます。